

## 第2章 岩見沢～苫小牧

### 第1節 2日目：6月12日（木）：岩見沢～由仁 曇り／晴れ

2025年6月12日（木）曇り／晴れ、室蘭本線の旅の2日目は、岩見沢から由仁までの営業キロ24.6kmに挑戦する。明日は苫小牧発6時11分の始発（3番ホーム2両編成）で岩見沢に向かうため、寝坊しないよう目覚まし時計を4時にセットし就寝する。3時頃目が覚め、本日の準備をする。沼ノ端から遠浅にかけて、山間が続き、車窓から熊出没の恐れを感じた。しかし、遠浅から岩見沢にかけては、所々で森は登場したが、熊の出現の恐れは感じられず安堵する。三川駅、由仁駅、栗山駅辺りから、岩見沢に向かう沢山の高校生が乗車し、車内は満席の状態となる。岩見沢には7時40分に到着。



※苫小牧駅へ



※岩見沢まで移動



※岩見沢駅



#### ※岩見沢駅

本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

岩見沢(7:51)～志文(9:35)～栗沢(10:56)～栗丘(12:07)～栗山(13:26)～由仁(ゆに、15:20)

①岩見沢は函館本線の踏破の際立ち寄った駅舎で懐かしくなる。当時の記録(日本縦断の旅 PDF 読本)を読み返すと、2014年6月26日(木)20時47分に上がり、2014年6月27日(金)スタートとある。11年前の自分の体力の凄さに驚く。8時10分、万歩計で71歩ある萩園橋(利根別川)を渡る。8時17分、岩見沢農業高前を通過。8時19分、40歩ある東利根別川を渡る。それにしても、岩見沢駅前の整備された道筋には改めて驚いた。8時30分、岩見沢高校北海道教育大学前を通過。この先の交差点でナビで現在地を確認する。国道234号から大きく離れており驚く。20分位要し、8時50分、駒園7交差点で国道234号に合流する。9時4分、高速道路下を潜る。9時17分、岩見沢明日佳病院前を通過。志文駅には9時35分にやっと到着する。営業キロ7.1kmに対し、1時間41分要す。



※志文駅への路



※志文駅



### ※志文駅

②9時47分より、84歩ある志文橋（幌向井:石狩川水系）を渡る。9時52分、道筋には麦畑があった。10時2分、耕成神社前で本日の安全を祈願する。その先で国道234号に合流する。10時13分、道筋に水田があった。10時22分、国道234号線から左折する。10時24分、栃沢十線橋を渡る。10時27分、田植えしたばかりの水田前を通過。10時30分、牛舎前を通過。10時45分、最上川（北橋）を渡る。栗沢駅には10時56分に到着。駅舎が自動ドアであるのに驚く。



### ※栗沢駅への路



#### ※栗沢駅

③11時7分、栗沢本町簡易郵便局前を通過。11時23分、国道234号線に合流する。11時44分、橋の名前にマッチしない泥水が流れる清流橋を渡る。北海道は道路は太いし、直線道路が多いのに改めて気付く。11時32分、最上南の沢橋（最上南の沢川）を渡る。11時33分、56歩ある加茂川（加茂橋）を渡る。この界隈の地点は、岩見沢から11kmとあった。朝、由仁駅界隈で見た山が見えて来る、11時53分、太陽光発電があった。栗丘駅には12時7分到着。



※栗丘駅への路



※栗丘駅への路

④12時10分、国道234号線に合流する。12時12分、29歩ある栗丘橋を渡る。12時22分、高速道路下を潜る。12時24分、岩見沢から13km地点に到達。12時26分、栗山4km、苫小牧63kmと記した道路標識前を通過。12時31分から12時35分にかけて、1975年4月廃線となった夕張鉄道線路下を潜る。12時39分、岩見沢市から栗山町に入る。右手には夕張川が流れていた。12時47分より、340歩ある第1松丘跨線橋を跨

ぎ、鉄道の左側となる。13時2分、栗山自動車学校前を通過。13時6分、桜が丘バス停前（中央バス）前を通過。13時12分より、111歩ある公園橋（雨煙別川）を渡る。道道274号（3.4.8新町通）を歩く。栗山駅には13時26分に到着。この駅には駅員の姿があった。丁度、苫小牧方面の列車がやって来る。



※栗山駅への路



※栗山駅



### ※栗山駅

⑤13時52分、富士川沿いを歩く。13時57分、麦畑前を通過。13時5分、JA空知南前を通過。13時7分、薄日となる。日本通運前を通過。14時14分、栗山町リサイクルセンター前を通過。14時26分、岩見沢方面に向かう1両編成の列車と対面し、大きく迂回する道筋もエンドとなる。8分位川に沿って歩き、14時41分より、471歩ある夕張川（栗由大橋）を渡る。14時51分、左手には池があった。14時58分、国道234号線に合流する。113歩ある由仁橋（由仁川）を渡る。由仁駅はセブンイレブンの交差点手前を右折したところにあったが、300m位行き過ぎる。由仁駅には15時28分に到着する。



### ※由仁駅への路



※由仁駅への路



※由仁駅

⑥運よく 15 時 34 分の列車に間に合う。当初の予定は 17 時 5 分であったので、ラッキーな気分となる。苫小牧駅には 16 時 41 分到着。汗を流した跡、ホテルロビーでカレーを頂き、部屋に戻りささやかながら祝杯をあげ、本日の疲れを癒す。



※ホテルへの途、追分駅

## 第2節 3日目：6月13日（金）；由仁～安平 晴れ

2025年6月13日（金）晴れ、室蘭本線の旅の3日目は、由仁から安平までの営業キロ22.4kmに挑戦する。昨日と同様、苫小牧6時11分の始発で臨む。本日の車窓からの眺めは2度目であったので、ゆったりした気分で眺める。本日も昨夜コンビニで購入したおにぎりで朝食とする。





※由仁駅までの移動



※由仁駅



※由仁駅

本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

由仁(7:28)～古山(ふるさん、8:40)～三川(9:40)～追分(12:00)～安平(あびら、14:09)

①由仁駅に到着するや否や、由仁駅で駅備え付けのメモ帳に今回の旅についてメモする。通路を經由し、鉄道の左側となる。小学生の登校場面に対面する。7時44分、国道234号線に合流する。8時12分、岩見沢まで26kmの地点を通過する。8時17分、苫小牧59km、安平26kmと記した標識前を通過。8時39分、古山川を渡った先に古山駅(8時40分)があった。



※古山駅への路



※古山駅への路



※古山駅

②8時25分、ビニールハウスを見て、20年位前、苺経営で頑張っていた両親の姿を思い出し胸がジーンとくる。8時59分、開進橋を通過。9時2分、左手に水田がある。9時12分、岩見沢から30km地点に到達。9時17分、32歩ある啓明橋（S63年10月）にある竣工年月を見て、苦しくもあったフコク生命時代の商品課長になった頃を思い

出し懐かしくなる。9時28分、セイコーマートを通過。9時30分、苫小牧46km、安平22kmと記した標識前を通過。9時37分、三川郵便局前を通過。駅舎看板の表示が欠落している三川駅には9時40分到着。丁度、2両編成の苫小牧方面の列車がやってくる。この駅前で北吉原に向かうという予約制のタクシーと対面する。



※三川駅への路



※三川駅



※三川駅

③真宗大谷派龍雲寺三明寺前を通過。9時56分、いい匂いがする日本食品製造合資会社三川第2工場前を通過。この辺りで岩見沢から32km地点とあった。トラクターで整地した田んぼの中で動物の足跡を見つける。10時3分、右手に線路が見え安堵する。途中、色々な野菜などと対面するが、農家に生まれたにも関わらず、その名称が分からず情けなくなる。10時20分、由仁町から千歳市となる。ここから、水田がある白樺並木を歩く。10時45分、岩見沢から35km地点に到達する。感動の余り、この境界の風景を何人かの友人にSNSする。10時48分、苫小牧41km、安平17kmと記した標識前を通過。11時8分、自転車野郎と対面する。11時12分、今歩いている道筋は山間であった。11時14分、道央ファームを通過。11時19分、岩見沢から37km地点に到達。11時25分、高速道路下を潜る。10時24分、由仁町から安平町となる。この境界で道路管理役所が岩見沢から苫小牧となる。11時30分、道の駅あびらD51ステーションまで2kmとある標識前を通過。



※白樺並木を歩く



※白樺並木を歩く



※道央ファーム

11時32分、根室本線追分跨線橋を跨ぐ。丁度、釧路方面に向けて特急が通過して行くところだった。11時39分、国道234号線から右折し、追分駅を目指す。42歩ある安平川（きょくこう橋）を渡る。追分駅には12時到着。この追分と印字した沢山の駅舎があるのに驚く。すなわち、本日踏破した追分駅以外に、福井県、秋田県、岡山県、三重県、長野県（安曇野・信濃）、滋賀県があった。このうち、秋田県と長野県は立ち寄った記憶が蘇る。駅前にはSLD51465の一部が展示されていた。



※追分駅への路



※追分駅



### ※追分駅

④駅前の道筋を淡々と歩いていると、袋小路となり、川を渡る橋がない。やむを得ず引き返す。5分位ロスタイムが生じる。12時22分、42歩ある追分五号橋（安平川）を渡り、リカバリーする。12時27分、苫小牧37km、安平7kmと記した標識前を通過。12時34分、今歩いて道路は追分線（道道226号）とあった。地名は舞鶴とあった。12時54分、国道234号線に合流する。13時2分、右手に線路が見え安堵する。13時12分より、117歩ある第一安平橋歩道橋を渡る。13時37分、岩見沢から45kmの地点に到達。13時41分、ため池前を通過。遠くに街並みが見えて来る。13時47分より、146歩ある支安平橋を渡る。13時55分、苫小牧31km、早来市街7kmと記した標識前を通過。14時2分、安平郵便局前を通過。その先に安平駅（14時9分）があった。



### ※安平駅への路



※安平駅への路



※安平駅

⑤昨日に引き続き、数分の待ち合わせで（14時9分）で苫小牧まで移動できる。苫小牧駅には14時45分に到着。駅前のラウンジで生ビールを一杯飲んだあと、初日に引き続き、苫小牧市内を散策する。ホテルには15時53分に到着。一服して汗を流したあと。郷土料理”せきはら”にお邪魔する。苫小牧名物のホッキ貝と支笏湖チップ刺しなどを頂き、本日の疲れを癒す。店主や女将さんと室蘭本線の旅などを話す機会を得、至福のひと時を過ごすことができる。感謝の気持ちで一杯となる。特にフグひれ酒は最高であった。



※駅前のラウンジで喉を潤す



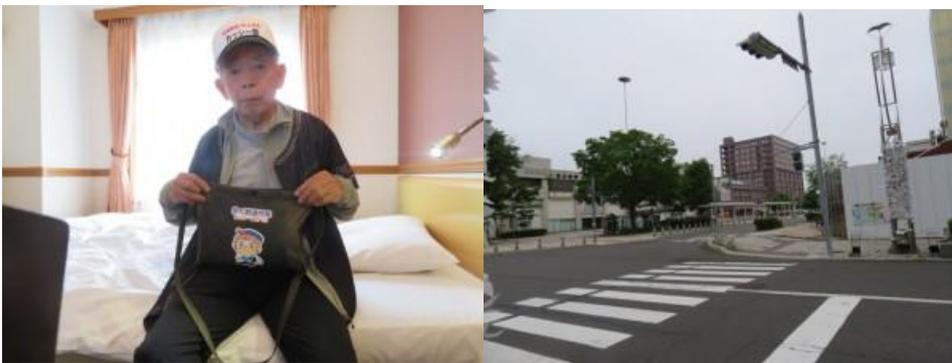
※苦小牧駅界隈を散策



※”せきはら”で祝杯

### 第3節 4日目：6月14日（土）：安平～苫小牧 晴れ

2025年6月14日（土）晴れ、室蘭本線の4日目は、安平から苫小牧までの営業キロ28.8kmに挑戦する。今回の旅で最長の区間となる。しかし、終着駅が苫小牧駅であるので、列車による時間の制限もなく精神的には楽な気持ちで臨むことができる。本日は、苫小牧7時31分発の列車のため、今回の旅で初めてホテルで朝食をとることができる。



※苫小牧駅へ



※1 両編成の洒落た車両で安平駅へ



※安平駅

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

安平(8:03)～早来 (はやきた、9:55) ～遠浅 (とあさ、11:36) ～沼ノ端(14:22)～苦小牧(18:13)

①遠浅駅手前で車両点検があったため、若干安平駅に到着する時刻が遅れる。8時15分、国道234号線に合流する。8時17分、セイコーマート前を通過。8時26分、森の中から鳥や虫の鳴き声を耳にする。8時35分、麦畑を通過。8時41分、バスと対面する。8時43分、追分ファーム(リリーバレー)を通過。その近くに”そば哲”という蕎麦屋があった。8時46分、白樺がある森からウグイスの鳴き声を耳にする。その先で、襷を持参するのを忘れたのに気がつく。8時58分、太陽光発電があった。9時7分、岩見沢から50km地点で心地よい風を感じる。9時12分、野菜畑を通過。9時22分、橋本牧場入口前を通過。その先に早来左官工業の看板があった。9時37分より、93歩あるニタツポロ川(ニタツポロ橋)を渡る。9時47分、サツドラ前を通過。早来駅には9時55分に到着する。



※早来駅への路



#### ※早来駅

②10時9分、苫小牧方面の列車が右手にある線路を通過して行く。10時13分、さつき団地前バス停（あづまバス）を通過。10時17分、岩見沢から54km地点に到達。この境界で木々の心地よさを感じる。10時20分、早来カントリー倶楽部前を通過。線路が右手にあるのを確認する。10時24分、新栄バス停前（あづまバス）を通過。10時30分より、237歩ある早来橋を渡る。この地点で岩見沢から55km地点に到達する。10時35分、水田が広がっていた。10時47分、ハウスと水田がある前を通過する。遠くには民家が広がっていた。10時51分、苫小牧21km、沼ノ端12kmと記した標識前を通過。10時58分、太陽光発電前を通過。11時6分、ミルクプラント溝口農場でソフトクリームを頂く。火照った身体を癒してくれる。11時12分、岩見沢から57kmの地点を通過。11時17分、安平町遠浅と記した看板前を通過。11時30分、ローソンがあった。遠浅駅には11時36分に到着する。



※遠浅駅への路、ソフトクリームでひと息



※遠浅駅

③遠浅郵便局前を通過。11時47分、太陽光発電前を通過。12時、61歩ある遠浅橋（遠浅川）を渡る。12時3分、安平町から苫小牧市となる。12時18分、苫小牧16km、沼ノ端7kmと記した標識前を通過。12時23分、森から虫の鳴き声を耳にする。12時43分、柏原廃棄物埋立処理場前を通過。12時45分、岩見沢から62km地点を通過。12時53分、森脱出と思いきやまだまだ森が続く。13時16分、岩見沢から64km地点を通過。13時17分、苫小牧方面に向かうバスが通過して行く。13時24分、やっと森を抜けだす。13時34分より、522歩ある沼ノ端橋（勇払川；ゆうぶつがわ）を渡る。13時45分、高速道路下を潜る。13時56分、日高自動車道入口バス停（道南バス・あづまバス）前を通過。14時6分、国道234号線から右折し、幹線道路に入る。14時10分、沼ノ端小学校前バス停前を通過。沼ノ端駅には14時22分に到着する。駅前には沼ノ端開基120周年と安全の鐘（鉄道百年記念）があった。この駅には千線線（白石～沼ノ端）も合流していた。



※沼ノ端駅への路



沼ノ端駅



※沼ノ端駅

④14時39分、昨日乗車した列車が通過して行く。14時48分、国道に合流する。14時53分、セブンイレブン前を通過。15時9分、日高線を跨ぎ、日高線を右手にする。15時19分、港北化学グループ前バス停前（道南バス）を通過。国道259号線を歩く。15時32分、近海郵船（株）苫小牧倉庫前を通過。この通りには陸運や海運倉庫の看板を多く目にする。15時52分、一本松公園前を通過。16時14分、大和運輸（株）苫小牧支店前を通過。16時15分、文化シャッター前を通過。苫小牧西港フェリーターミナルを看板を見つけ、この場所までに向かうことにする。16時30分、晴海町西バス停前を通過。苫小牧西港フェリーターミナルには16時50分到着。入船橋17時12分を経由し、国道には17時13分に戻る。都合49分要して、苫小牧西港の観光ができラッキーであった。



※苫小牧西港までの路



※苫小牧西港フェリーターミナル



※苫小牧西港フェリーターミナル

17時15分より、75歩ある新和橋を渡る。17時17分、苫小牧港開発（株）前を通過。濃霧で視界が悪くなる。17時28分、海岸線に立ち寄り、船を撮影する。17時50分、蔦屋前を通過。その先でカラスの童謡が聞こえてくる。17時58分、若草公園に面した nepia アイスアリーブ前を通過。18時4分、王子総合病院前を通過。その前に苫小牧郵便局があった。苫小牧駅には18時13分に到着する。万歩計は62,889歩だった。久しぶりに10時間に及ぶウォーキングとなる。



※nepia アイスアリーブ



※苫小牧駅への路、苫小牧駅

⑤ホテルには、18時17分に到着。汗を流した跡、初日にお邪魔した海鮮茶屋”海陽”で本日の疲れを癒す。



※海陽で祝杯